

1、県立病院としての機能強化

課題	アクションプラン	KPI(主な数値目標)		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
関係機関との連携強化	保健・医療・福祉関係者による協議の場の稼働															
効率的かつ適切な入退院の調整	病院全体の入退院を調整する会議の設置															
患者の社会復帰促進		退院前訪問指導回数	420 回	実績	41	31	41	25	20	13						
			進捗率	9.8%	17.1%	26.9%	32.9%	37.6%	40.7%							
患者の地域移行・地域定着に向けた病院内の体制整備		支援会議回数	245 回	実績	16	16	17	22	17	18						
				進捗率	6.5%	13.1%	20.0%	29.0%	35.9%	43.3%						
精神科救急医療における基幹病院としての役割の実践		延入院患者数	63,875 人	実績	4,886	5,206	4,676	4,693	4,951	5,051						
				進捗率	7.6%	15.8%	23.1%	30.5%	38.2%	46.1%						
<p>＜アクションプラン進捗状況＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 伊勢崎市の地域包括ケアシステム検討会議への参画等を通じ、関係機関との連携強化を推進。 来年度4月予定の病床見直しに備え、院内の病床コントロールに関するワーキンググループを今年度上期に5回実施。今年度中に委員会に移行し運用開始予定。 		KPI進捗状況	<p>＜具体的な取組内容＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 医療サービス向上の一環として、丁寧な退院支援を行う。（退院前訪問指導） 患者さんが退院後、地域で安心・安全して生活できるよう関係者とともに支援（支援会議） 救急病棟の長期入院患者の転棟を積極的に推進するなど、適切なベッドコントロールを実施していく。 来年度に向けて、今年度下期から救急患者受入準備委員会を実施していく方針を決定。 							<p>＜具体的な取組内容＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 						
			<p>＜下期の取組予定＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 医療サービス向上の一環として、丁寧な退院支援を行う。（退院前訪問指導） 患者さんが退院後、地域で安心・安全して生活できるよう関係者とともに支援（支援会議） 12月開催予定の地域連携交流会にて、ワークショップを主催予定 来年度4月からの病床見直しに備え、院内の病床コントロールに関するワーキンググループについて、今年度中に委員会に移行し運用開始予定。 							<p>＜次年度の取組予定＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 						

KPI進捗状況推移



第五次群馬県立病院改革プランの進捗状況について（個別計画）〈精神医療センター〉

2、群馬の医療を担う人材の確保と育成

課題	アクションプラン	KPI(主な数値目標)			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
医師の育成・確保	医療機関と連携した医学生・初期研修医への説明会等															
	後期研修プログラム作成															
効果的な情報発信による認知度の向上		研修医の受入	35 人	実績	0	4	3	5	5	5						
			進捗率	0.0%	11.4%	20.0%	34.3%	48.6%	62.9%							
		実習医の受入	110 人	実績	0	2	0	0	0	0						
			進捗率	0.0%	1.8%	1.8%	1.8%	1.8%	1.8%							
		看護実習生の受入	280 人	実績	5	0	16	21	10	0						
			進捗率	1.8%	1.8%	7.5%	15.0%	18.6%	18.6%							
<p><アクションプラン進捗状況></p> <ul style="list-style-type: none"> 精神科専攻医希望者へのweb説明会を実施し、三名参加いただいた。 当院基幹プログラムに協力病院として新たに高崎総合病院を追加。 新型コロナの影響により、「ぐんまこころの医療体験ラリー」や「群馬の精神科専門医研修プログラム説明会」は中止せざるを得ず、状況を注視しながら開催を検討する。 				KPI進捗状況	<p><具体的な取組内容></p> <ul style="list-style-type: none"> 精神科医療を支える人材の育成のため、研修医、実習医、看護実習生等を積極的に受け入れる。 (但し、実習医、看護実習生等については、新型コロナの影響により受入れ人数が激減) 						<p><具体的な取組内容></p> <ul style="list-style-type: none"> 					
					<p><下期の取組予定></p> <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナの感染状況を注視しながら、精神科医療を支える人材の育成のため、研修医・実習医、看護実習生等を積極的に受け入れる。 						<p><次年度の取組予定></p> <ul style="list-style-type: none"> 					

KPI進捗状況推移



第五次群馬県立病院改革プランの進捗状況について（個別計画）＜精神医療センター＞

3、経営の健全化

課題	アクションプラン	KPI(主な数値目標)			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
更なる費用削減	ESCO 事業による施設維持費の削減																	
入院収益の向上 (病床管理の効率化・早期退院の促進・地域への移行・定着の推進)		運用病床利用率	78.1 %	実績 達成率	72.7 93.1%	75 96.0%	69.6 89.1%	67.6 86.6%	71.3 91.3%	75.2 96.3%								
		入院単価	27,060 円	実績 達成率	27,839 102.9%	28,458 105.2%	30,806 113.8%	29,829 110.2%	30,668 113.3%	30,667 113.3%								
		精神科救急病棟 在院延患者数	22,630 人	実績 進捗率	1,906 8.4%	2,014 17.3%	1,925 25.8%	2,075 35.0%	2,166 44.6%	2,088 53.8%								
入院収益以外の収益の拡大(デイケア・訪問看護・アウトリーチ等の充実)		外来単価	9,331 円	実績 達成率	9,312 99.8%	9,447 101.2%	9,494 101.7%	9,466 101.4%	10,066 107.9%	9,927 106.4%								
<p>＜アクションプラン進捗状況＞</p> <p>・県ESCO事業による導入可能性調査の採択に向けて、情報提供等の病院局総務課の協力を得ながら検討を進める。</p>		KPI進捗状況	<p>＜具体的な取組内容＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 救急病棟の長期入院患者の転棟を積極的に推進するなど、適切なベッドコントロールを実施していく。 但し、令和3年度上期においては県営ワクチンセンターへの人員派遣のため、病床を制限したことにより利用率は目標未達となった。 ・月2回実施する推進会議において、入院患者数のほか、「精神科救急入院料1」の施設基準を満たすために必要となる患者の退院状況を共有。 								<p>＜具体的な取組内容＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ・ 							
			<p>＜下期の取組予定＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来年度4月からの病床見直しに備え、院内の病床コントロールに関するワーキンググループについて、今年度中に委員会に移行し運用開始予定。 ・月2回実施する推進会議において、入院患者数のほか、「精神科救急入院料1」の施設基準を満たすために必要となる患者の退院状況を共有。 								<p>＜次年度の取組予定＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ・ 							

KPI進捗状況推移



第五次群馬県立病院改革プランの進捗状況について（個別計画）〈精神医療センター〉

4、デジタルトランスフォーメーションの推進

課題	アクションプラン	KPI(主な数値目標)			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
DXの推進	AI-OCRの活用															
	RPAの活用															
業務プロセスの整理・見直し		WEB会議件数	150 件	実績	7	18	29	29	23	25						
				進捗率	4.7%	16.7%	36.0%	55.3%	70.7%	87.3%						
		電子決裁率	75 %	実績	31.8	25.3	26.5	25.4	33.1	28						
				達成率	42.4%	33.7%	35.3%	33.9%	44.1%	37.3%						
		時間外勤務時間	3,510 h	実績	298	210	291	360	327	315						
				進捗率	8.5%	14.5%	22.8%	33.0%	42.3%	51.3%						
<p><アクションプラン進捗状況></p> <ul style="list-style-type: none"> AI-OCRについては、総務課にて患者アンケートの集計に活用。 RPAについては、他の病院での採用事例などを参考に検討を進める。 				KPI進捗状況	<p><具体的な取組内容></p> <ul style="list-style-type: none"> web会議やweb研修を積極的に活用。 電子決裁の推奨 各部署毎に、毎月の時間外勤務時間の数値目標を設定するとともに、四半期毎に取組計画を策定・振り返りを実施。 <p>上期の時間外勤務時間は目標を上回っているものの、県営ワクチンセンターへの人員派遣の影響を除くと目標達成。(34.8%)</p>						<p><具体的な取組内容></p> <ul style="list-style-type: none"> 					
					<p><下期の取組予定></p> <ul style="list-style-type: none"> web会議やweb研修を積極的に活用。 電子決裁の向上に向けて院内WGで対策を検討 医療安全に係るアンケート集計にAI-OCRの活用を検討 各部署毎に、毎月の時間外勤務時間の数値目標を設定するとともに、四半期毎に取組計画を策定・振り返りを実施。 						<p><次年度の取組予定></p> <ul style="list-style-type: none"> 					

KPI進捗状況推移



第五次群馬県立病院改革プランの進捗状況について（個別計画）＜精神医療センター＞

5、新たに挑戦するもの

項目	プラン説明文	進捗状況
アウトリーチ医療の充実	当院退院者、外来通院者が体調悪化により治療中断などになった際に、多職種による相談・訪問などで問題解決を図る体制を構築していきます。	・令和3年4月より副院長をはじめとした多職種によるチームを編成し、治療中断例や症状増悪例へのアプローチを実施。
「WRAP」(患者主体のプログラム)の運営	今までのやや強制的治療が主体であった精神科医療から、「当事者研究」など患者が治療の主体となる新時代型の医療へと舵を切るための土台作りをしていきます。	・外部ファシリテーターを活用し、今年度からまずは医療観察法病棟にて、月2回の頻度で定期的な運営を開始。
児童・思春期の患者への対応強化	当県では児童思春期患者の入院対応施設が他県に比べ乏しいといわれている。当院でも一般病棟にて対応は行っているが、十分とはいえません。更なる充実のためスタッフの専門性を高め、対応の強化を目指します。	・毎週1回、専門外来を設置し対応にあたっている。 なお、令和3年度上期の20才未満の延べ入院患者数は561人。（実入院患者10名）
後期研修(精神科基幹)プログラムの充実	県内の精神科専門医育成のため、後期研修医の受け入れを積極的に行っており、ここ数年は対象者が増えています。更なる充実を図るため、専攻医のニーズを把握し、より魅力あるプログラムを作成・運用していきます。	・当院基幹プログラムに協力病院として新たに高崎総合病院を追加。
依存症集団プログラムの実施	薬物やアルコール依存症の個別対応は行っているものの、依存症治療で有効とされる集団プログラムは行っていません。今後、ゲーム・ネット依存の対応も含めた集団プログラム体制を検討します。	・今年度から毎週1回、専門外来を設置し対応にあたっている。 ある程度の人数の患者が揃った後は、集団プログラムを併用する予定。
クロザピン治療の地域連携強化	治療抵抗性統合失調症治療薬であるクロザピンは県内ではほぼ当院でのみ治療の導入を行っています。登録医療機関でないと処方できないため、その機関がない地域の患者は外来処方が受けにくいことで導入を断念する事態が生じています。その解消のため、導入後の外来治療ができる地域の医療機関を増やしネットワークを作っていきます。	・クロザピン治療の運用についての情報提供を行い、地域で対応可能な医療機関の掘り起こしを推進。 また、クロザピン導入患者は入院30日以上でも急性期入院料が算定できるようになったことから、より導入しやすくなった。 ・今年度上期の導入開始人数は11人であり、今後更に導入患者が増える見込。

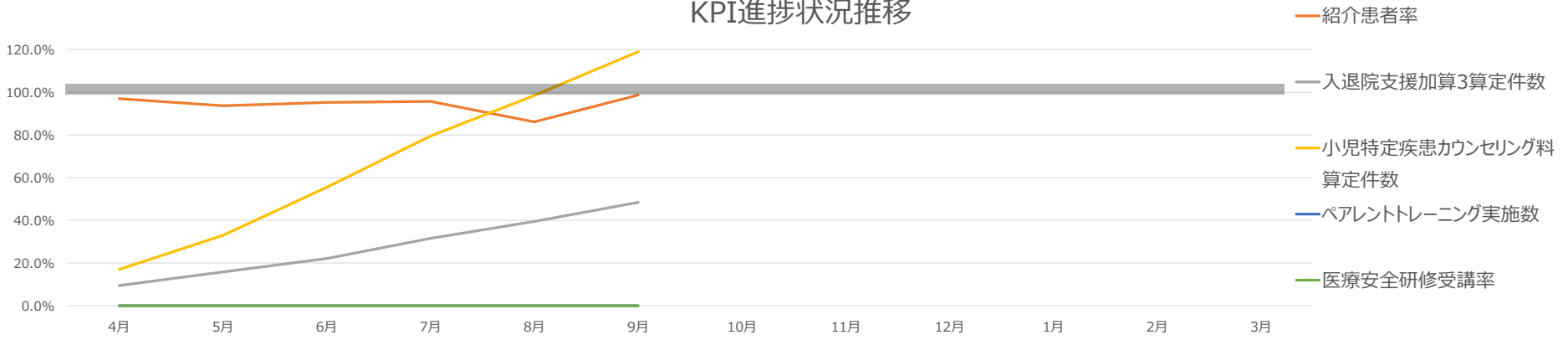
第五次群馬県立病院改革プランの進捗状況について（個別計画）〈小児医療センター〉

資料3（小児）

1、県立病院としての機能強化

課題	アクションプラン	KPI(主な数値目標)			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
地域の病院や診療所等との密接な連携	紹介・逆紹介の推進	紹介患者率	96 %	実績	93.1	89.9	91.4	91.9	82.7	94.7						
				達成率	97.0%	93.7%	95.2%	95.7%	86.1%	98.7%						
社会の変化に対応した診療体制の強化	在宅療養支援の充実	入退院支援加算3算定件数	190 件	実績	18	12	12	18	15	17						
				進捗率	9.5%	15.8%	22.1%	31.6%	39.5%	48.4%						
	子どもの心のケアの充実	小児特定疾患カウンセリング料算定件数	200 件	実績	34	32	45	48	38	41						
				進捗率	17.0%	33.0%	55.5%	79.5%	98.5%	119.0%						
総合周産期母子医療センターとしての役割の充実	ペアレントトレーニングの実施	ペアレントトレーニング実施数	5 件	実績	0	0	0	0	0	0						
				進捗率	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%						
安全な環境づくりとチーム医療の推進	Team STEPPSの導入	医療安全研修受講率	88 %	実績	0	0	0	0	0	0						
				達成率	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%						
<p>〈アクションプラン進捗状況〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登録医制度を推進し、患者の紹介・逆紹介にも積極的に取り組んだ結果、上期の紹介患者率は90.6%となり、目標には届いていないが、数値を維持している。 ・在宅療養支援については、入退院支援加算3を取得し、対象者に対して、担当が退院支援計画を作成し、入退院支援を行った。また、NICU看護師に周知するとともに、小児在宅移行に係る適切な研修受講を勧めた。 ・摂食障害、2次障害を併発している発達障害、後遺症が顕著な被虐待、心身症等を併発している不登校等の児や家族を対象に心理カウンセリングを実施した。 ・ペアレントトレーニングについては、実施内容等について検討を行っている。 ・安全性を高めるチーム医療を推進するため、Team STEPPSの導入に向けた研修会の日程を調整中である。 				K P I 進 捗 状 況	<p>〈具体的な取組内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登録医制度を推進し、新たに1名が登録医となった。(R3.9.30現在 314名) ・できるだけ漏れがないように、入退院支援加算を取得した。また、入退院支援加算3取得に必要な要件をNICU看護師に説明した。さらに、在宅移行に係る適切な研修を1名修了した。 ・小児特定疾患カウンセリングについては、1回50分、本人・家族を対象に実施した。心理教育・支持的療法・認知行動療法・トラウマ治療・箱庭療法・精神分析的な心理療法、聞くとレ等、ニーズに応じて実施した。 ・ペアレントトレーニングについては、実施方法、対象者について検討を行った。 ・Team STEPPSの基本的な考え方等について、院内にポスターを掲示した。 						<p>〈具体的な取組内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・ 					
					<p>〈下期の取組予定〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、新たな登録医の獲得及び登録医の定着を図っていく。(登録医大会は今年度は見送り。) ・入退院支援加算については、GCU転棟後の急な週末退院が発生したことにより加算取得ができなかったケースがあったため、GCU病棟へも加算取得の説明を実施する。 ・小児特定疾患カウンセリングについては、研修等を受け、クライアントのニーズに対応できる範囲を広げる取り組みをしながら、前期同様に心理カウンセリングを実施していく。 ・ペアレントトレーニングについては、引き続き、実施方法、対象者について検討する。 ・Team STEPPSの導入に向けて、1月に研修を実施する予定である。 						<p>〈次年度の取組予定〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・ 					

KPI進捗状況推移



第五次群馬県立病院改革プランの進捗状況について（個別計画）＜小児医療センター＞

2、群馬の医療を担う人材の確保と育成

課題	アクションプラン	KPI(主な数値目標)		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
関係機関との連携を強化 センターの魅力・強みの情報発信	研修医・実習生の受入強化	医学実習生の受入延べ人数	300 人	実績 進捗率	5 1.7%	0 1.7%	0 1.7%	0 1.7%	0 1.7%	0 1.7%						
		看護学生の受入延べ人数	100 回	実績 進捗率	0 0.0%	0 0.0%	32 32.0%	47 47.0%	39 39.0%	109 109.0%						
		放射線実習生の受入延べ人数	16 人	実績 進捗率	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	11 68.8%	0 68.8%	0 68.8%						
		理学療法士・作業療法士実習生の受入延べ人数	100 人	実績 進捗率	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	11 11.0%	20 20.0%						
専門医養成プログラムの充実や各種専門資格の取得支援、院内研修体制の強化	各種認定・専門資格の取得支援 職員教育の強化	認定看護師の育成人数	8 人	実績 進捗率	8 100.0%	0 100.0%	0 100.0%	0 100.0%	0 100.0%							
<p>＜アクションプラン進捗状況＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修医や実習生の受け入れについては、新型コロナウイルスの感染状況を考慮しながら、関係機関と調整を行い実施した。 ・医学実習生については、県内警戒度が2以下でなければ受け入れを停止しているため、上期はほとんど受け入れ実績がなかった。 ・看護学生の受け入れについては、院内のCOVID-19の会議で検討し、その結果を踏まえて受け入れ予定の各大学等と調整した。 ・放射線実習生については、昨年度に続き新型コロナウイルス感染症の影響で病院として実習生を受け入れることができなかった。 ・理学療法士・作業療法士実習生の受け入れについては、群馬大学医学部保健学科理学療法専攻の学生実習を実施した。 ・認定看護師の育成については、看護職員に意向を確認した。また、診療報酬につながる資格のため、待遇についての検討を行った。 		<p>K P I 進 捗 状 況</p>		<p>＜具体的な取組内容＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医学実習生については、警戒度が下がり次第、受け入れを再開する旨、群馬大学医学部等と調整を行った。 ・看護学生については、警戒度2以下で実習を受け入れた。3以上の場合には、リモートを活用した受け入れを行った。 ・放射線実習生の受け入れについては、現場での実習が実施できない状況であったため、オンラインによる講義を実施した。 ・理学療法士・作業療法士実習生の受け入れについては、警戒度が高い時期であり、大学側と協議し、オンライン・電話・書面で講義・症例検討指導の形式で実施した。 ・認定看護師については、看護職員に対し、7月に意向調査を実施した。また、アドバンス産師（CLoCMIPIレベルⅢ）の待遇について、事務局と検討を行った。 <p>＜下期の取組予定＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医学実習生については、警戒度が下がった場合には受け入れを再開することとし、特に群馬大学医学部からの受け入れについて打診する。 ・看護学生については、ガイドラインに応じて、できるだけ受け入れをしいため、各大学等と調整していく。 ・放射線実習生については、年間計画より今年度の受入予定はないが、依頼があり警戒度2以下の条件を満たせば受け入れを行う。 ・理学療法士・作業療法士実習生の受け入れについては、警戒度2以下の期間は、感染対策委員会の指示に従い、通常形式どおり学生が来院しての実習を実施する予定である。 ・認定看護師や専門看護師について説明と周知を行うとともに、面接時に動機付けを行う。また、アドバンス産師の待遇改善や専門看護師の待遇について検討を行う。 						<p>＜具体的な取組内容＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・ <p>＜次年度の取組予定＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・ 						



第五次群馬県立病院改革プランの進捗状況について（個別計画）〈小児医療センター〉

3、経営の健全化

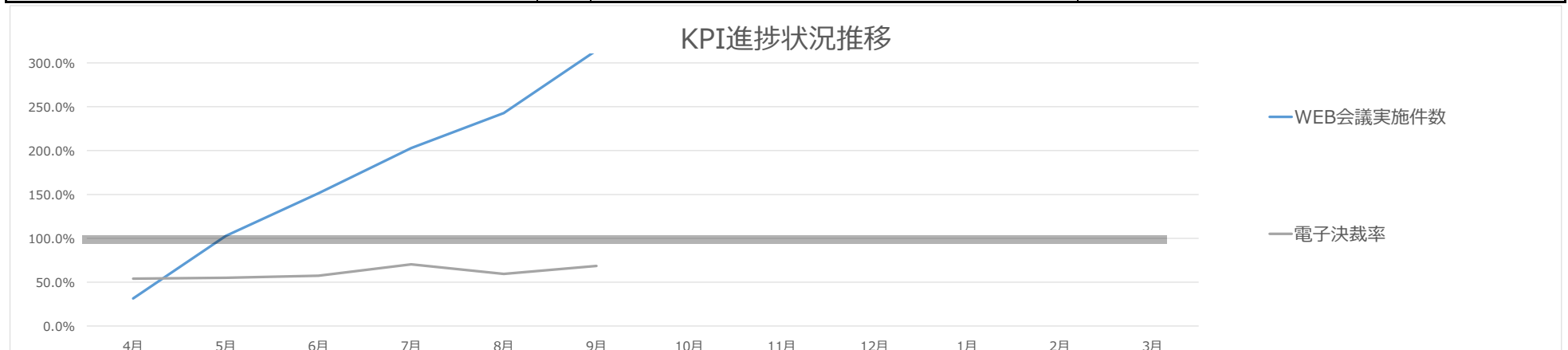
課題	アクションプラン	KPI(主な数値目標)		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
PICU患者の入院の長期化	HCU設置の検討	経常収支比率	99.4 %	実績 達成率	450.4 453.1%	130.7 131.5%	77.7 78.2%	104.3 104.9%	84.9 85.4%	92.7 93.3%					
		病床利用率	74.6 %	実績 達成率	69.6 93.3%	73.5 98.5%	77.7 104.2%	80.9 108.4%	81.1 108.7%	78.6 105.4%					
		PICU加算算定患者数	983 人	実績 進捗率	39 4.0%	67 10.8%	67 17.6%	126 30.4%	114 42.0%	71 49.2%					
経費削減	材料費の削減 委託料の削減	後発医薬品指数	90.0 %	実績 達成率	90.35 100.4%	86.33 95.9%	88.01 97.8%	87.94 97.7%	88.82 98.7%	88.76 98.6%					
全職員の経営意識の醸成	経営参画意識の醸成														
<p><アクションプラン進捗状況></p> <ul style="list-style-type: none"> ・PICUの効率的な病床運用を図るため、一般病棟の受け入れ体制強化について検討した。 ・経費削減については、後発医薬品の採用による薬品費の削減や、共同購入品への切替促進、価格交渉の強化による診療材料費の削減などに取り組んだ。 ・職員の経営参画意識を高めるため、院内一斉メールにより令和2年度決算（速報値）に係る情報提供を行った。 				K P I 進 捗 状 況	<p><具体的な取組内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・患者数を増加させるため、各診療科ごと入院患者数を1名増加させることを目標に取り組みとともに、適切なベッドコントロールによりPICU加算の算定患者数の増加に努めるなど、収益の向上を図った。 ・薬事委員会において、薬剤部から後発医薬品への変更をほぼ毎回提案し、薬品費の削減に努めた。 ・診療材料については、共同購入品への切替を促進するとともに、価格交渉支援委託を活用して価格交渉を強化し、経費削減を図った。 ・職員の経営参画意識を高めるため、6月に全職員に対し、院内一斉メールにより、令和2年度決算（速報値）に係る情報提供を行った。 					<p><具体的な取組内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ・ 					
					<p><下期の取組予定></p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、各診療科ごと入院患者数を1名増加させることを目標に取り組みとともに、PICU加算の算定患者数の増加に努める。 ・後発医薬品の採用については、小児適用があり、指数への寄与の大きな薬の多くは後発に変更したため、それ以外の薬について検討を行う。 ・診療材料については、引き続き、安価な代替品の導入や、共同購入品への切替を進めていく。 ・職員の経営参画意識を高めるため、部門別原価計算の導入について検討を行う。 					<p><次年度の取組予定></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ・ 					



第五次群馬県立病院改革プランの進捗状況について（個別計画）＜小児医療センター＞

4、デジタルトランスフォーメーションの推進

課題	アクションプラン	KPI(主な数値目標)		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
DX推進体制の構築	DX推進体制の構築														
部門を横断した業務プロセスの整理や見直し	WEB会議の推進	WEB会議実施件数	35 件	実績	11	25	17	18	14	25					
				進捗率	31.4%	102.9%	151.4%	202.9%	242.9%	314.3%					
情報ネットワークの構築	ペーパーレス化の推進	電子決裁率	60 %	実績	32.4	33.0	34.4	42.2	35.6	41.1					
				達成率	54.0%	55.0%	57.3%	70.3%	59.3%	68.5%					
<p>＜アクションプラン進捗状況＞</p> <ul style="list-style-type: none"> DX推進体制の構築に向けて、当院の問題点や課題について整理し、DX推進委員会及びワーキンググループを設置した。 関係機関との連携によるWEB会議の実施や、電子決裁を活用したペーパーレス化の推進など、ICTによる業務効率化を図った。 				K P I 進 捗 状 況	<p>＜具体的な取組内容＞</p> <ul style="list-style-type: none"> DX推進体制を整備するに当たり、第五次病院改革プラン策定時に実施した部門別課題調査の結果を基に、当院の問題点や課題について整理した。 整理した問題点や課題を踏まえ、6月に小児医療センターDX推進委員会を設置するとともに、9月には2つのワーキンググループ（スマートフォン導入検討WG、事務改善WG）を立ち上げた。 新型コロナウイルスの感染状況も考慮し、会議や研修会の実施・参加に当たっては、積極的にWEB方式を採用した。 総務事務システムによる文書作成において、電子決裁の活用を推進した。 					<p>＜具体的な取組内容＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 					
					<p>＜下期の取組予定＞</p> <ul style="list-style-type: none"> DXの推進に向けてワーキンググループでの検討を実施する。 引き続き、WEB方式による会議や研修会の実施、参加を推進する。 電子決裁率60%の達成に向けて、積極的に電子決裁を活用した文書作成を行う。 					<p>＜次年度の取組予定＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 					



第五次群馬県立病院改革プランの進捗状況について（個別計画） <小児医療センター>

5、新たに挑戦するもの

項目	プラン説明文	進捗状況
<p>脊髄性筋萎縮症患者に対するゾルゲンスマによる治療</p>	<p>遺伝性疾患として難病に指定されている脊髄性筋萎縮症（SMA）患者に対して、新たな治療薬であるゾルゲンスマによる治療を行います。ゾルゲンスマは、SMA の根本原因である SMN1 遺伝子の機能欠損を補う治療薬であり、2 歳未満の患者に対して、単回の静脈内投与を行うことで、生命予後及び運動機能の改善が期待できる新たな治療法です。</p>	<p>対象となる患者がいなかったため、進捗はなかった。</p>
<p>未熟児網膜症患者に対するルセンティスによる治療</p>	<p>未熟性の強い早産児の救命率は向上していますが、それに伴い未熟性の強い児では未熟児網膜症の発症が問題となってきました。重症の未熟児網膜症に対して、従来は網膜へのレーザー凝固療法が行われていましたが、これは患者への負担が大きい治療法です。新たに適応となったルセンティスは抗VEGF薬で、注射により眼内投与することで効果を発現します。本治療法を行うことにより、患者への負担の大きいレーザー凝固療法を回避することが期待されます。</p>	<p>上半期は、未熟児網膜症患者 1 名にルセンティスを投与し、患者への負担の大きいレーザー凝固療法を回避できた。</p>
<p>胎児貧血に対する胎児輸血</p>	<p>パルボウイルスB19 の胎内感染や母児間輸血症候群で発症した胎児貧血に対して胎児輸血を行います。胎児採血で得られたHb 値をもとに計算された量のO 型Rh マイナスの赤血球濃厚液を、臍帯静脈あるいは胎児腹腔内に投与することで、胎児貧血と予後の改善を目指すものです。</p>	<p>対象となる患者がいなかったため、進捗はなかった。</p>